

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 26 年 4 月 3 日 (2014.4.3)

【公開番号】特開 2012-186111 (P2012-186111A)  
 【公開日】平成 24 年 9 月 27 日 (2012.9.27)  
 【年通号数】公開・登録公報 2012-039  
 【出願番号】特願 2011-50002 (P2011-50002)  
 【国際特許分類】

H 0 1 J 35/08 (2006.01)

【F I】

H 0 1 J 35/08 F

H 0 1 J 35/08 D

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 2 月 18 日 (2014.2.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電子放出源と、

前記電子放出源に対向して配置されたターゲットとを有し、

前記電子放出源から放出された電子が前記ターゲットの内面に照射されることにより発生する X 線が、前記内面と対向する外面側から取り出される X 線発生装置であって、

前記電子放出源側の開口部から前記ターゲットに向かって前記電子を通過させる電子通過孔を有する遮蔽部材が前記内面側に配置され、

前記ターゲットの内面周縁の少なくとも一部と前記遮蔽部材との重なり領域である重複部を有し、

前記外面上の、前記重複部との対応領域に温度センサーが配置されていることを特徴とする X 線発生装置。

【請求項 2】

更に、前記ターゲット側の開口部から外方に向かって前記 X 線を通過させる X 線通過孔を有する遮蔽部材が配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の X 線発生装置。

【請求項 3】

前記 X 線通過孔のターゲット側の開口部の面積が、前記電子通過孔のターゲット側の開口部の面積よりも大きいことを特徴とする請求項 2 に記載の X 線発生装置。

【請求項 4】

前記温度センサーは、熱電対からなり、前記熱電対は、前記外面に口ウ付けされていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の X 線発生装置。

【請求項 5】

前記ターゲットがアースグランドに接続されていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の X 線発生装置。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の X 線発生装置と、

前記 X 線発生装置から放出され被検体を透過した X 線を検出する X 線検出部と、

前記 X 線発生装置と前記 X 線検出部とを制御する制御部と、

を備えることを特徴とする X 線撮影装置。

## 【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

上記課題を解決するために、本発明は、電子放出源と、  
前記電子放出源に対向して配置されたターゲットとを有し、  
前記電子放出源から放出された電子が前記ターゲットの内面に照射されることにより発生するＸ線が、前記内面と対向する外面側から取り出されるＸ線発生装置であって、  
前記電子放出源側の開口部から前記ターゲットに向かって前記電子を通過させる電子通過孔を有する遮蔽部材が前記内面側に配置され、  
前記ターゲットの内面周縁の少なくとも一部と前記遮蔽部材との重なり領域である重複部を有し、  
前記外面上の、前記重複部との対応領域に温度センサーが配置されていることを特徴とするＸ線発生装置を提供するものである。